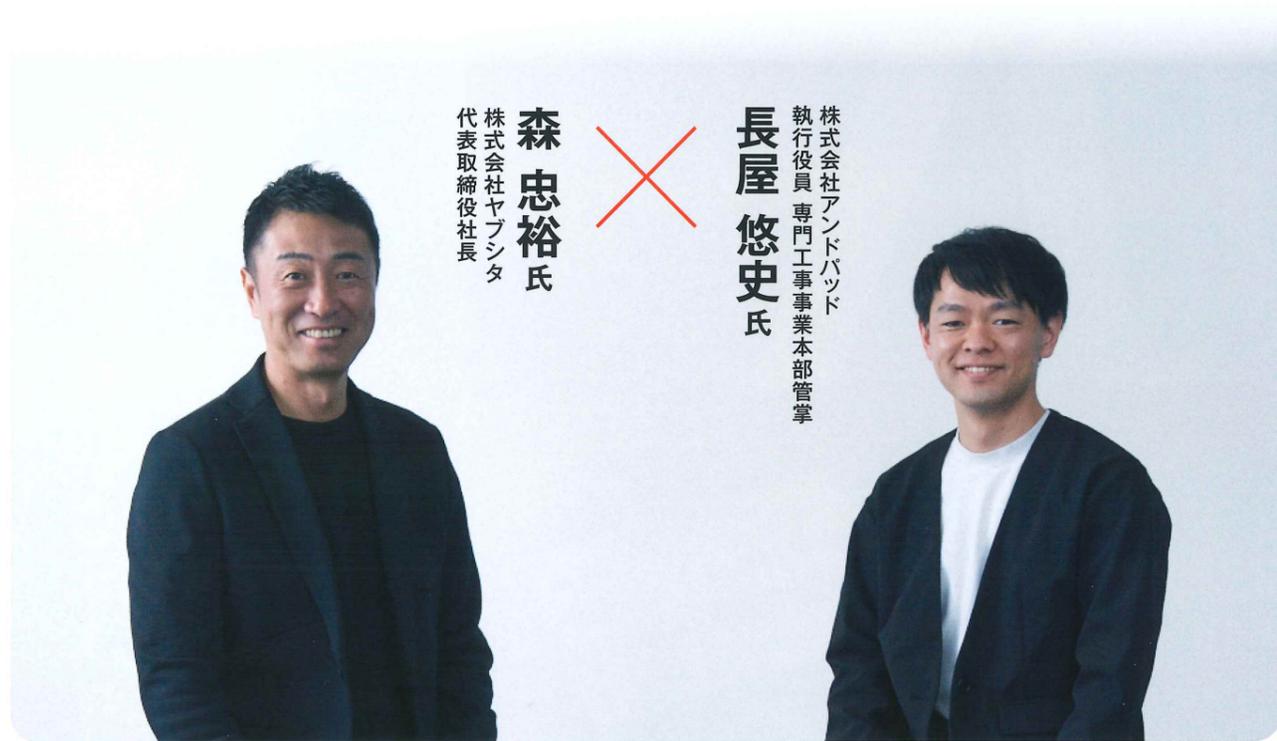


「より強く、若い組織を保った」



株式会社ヤブシタ
代表取締役社長
森 忠裕氏

株式会社アンドパッド
執行役員 専門工事事業本部管掌
長屋 悠史氏

アンドパッド(社長=稲田武夫氏、本社・東京都千代田区神田練堀町300)が展開するクラウド型建設プロジェクト管理サービス「ANDPAD」は、クラウド上で現場に関係する情報を一元的に管理し、社内外の関係者が情報を共有できるツールである。

リフォーム会社向けの施工管理ツールとしてスタートしたANDPADは、近年は空調・冷熱を含む設備工事分野にも導入の裾野を広げている。一方、空調・冷熱業界において常識を打ち破り、新しい風を吹き込んでいるのがヤブシタ(社長=森忠裕氏、本社・札幌市中央区北1条西9-3-1)だ。空調・冷熱部材メーカーとしてトップシェアを誇る同社は、15社からなるヤブシタグループを構成。

その中のヤブシタ冷熱設備はANDPADのユーザーである。

この4月から建設業界にも残業上限規制が適用され、DXの重要性が高まる中、現場経験を有する森社長と、アンドパッドで設備工事会社全般を管掌する長屋悠史氏に、DXによる成長の可能性と新しい働き方について語ってもらった。

業界における現状の課題感

ヤブシタ・森忠裕社長(以下、森): 色々な会社で『社員が管理職になりたがらない』という話をよく聞きます。管理職は、労働基準法に基づく「管理監督者」に当たるため残業代が付きません。管理職にならない方が給料が高く、責任も軽いのですから、なり手が減るのは当然です。私はこの状況がおかしいと感じ、当社では2年前から管理職にも残業代を支払っていますが、それでも経常利益は黒字を続けています。社員が十分に能力を発揮できれば、お客様から評価して頂き、仕事は増えていきます。根元的に一番大事なのは社員です。4月からの残業上限規制により、労働者の法定

内残業を超える分の業務が管理職に移行してしまったり、心や体を壊す管理職が増えるのではないのでしょうか。ところでANDPADはすごいシステムですね。私は現場出身ですが、昔からこれが欲しかったです(笑) アンドパッド・長屋悠史執行役員(以下、長屋): 有難うございます。お客様からも『もっと早く来てよ』とよく言われます(笑) 私はここ2年で全国約250社の設備工事会社さんにお会いしましたが、同じように評価して頂く声もあれば、『どうすればよいかわからない』『ゼネコンさんが変わらないとどうしようもない』といった声も頂きます。森: 以前のように残業はできないのですから、DXで業務効率化を図るしかないでしょう。AND

PADを利用すれば、感覚的には3~4割時間を減らすことができます。長屋: ただ導入頂いたお客様の中でも、今までのやり方を変えられない方もいらっしゃいます。若い方は導入翌日から使い始めますが、50代を過ぎた辺りから、取り組む方と取り組まない方に半々で分かれます。

ヤブシタのDXと設備工事会社のDX

森: ヤブシタでは、ガンタイプの測定機械で室外機をなぞると0.1ミリメートル以内の誤差で図面化できる「リバースエンジニアリング」という技術を取り入れています。これにより、当社は特注品

「持続可能な経営戦略とは」



への対応が素早くなり、トップシェアを獲得したのですが、これまでは現場調査に時間がかかり、しかも測定には技術が必要で、限られた中堅社員しか対応ができませんでした。ところが今回ガンタイプの機械の導入によって新人でも対応が可能になりました。業務効率向上と共に、お客様への回答が速くなり、企業の「価値」になっています。

私は、社員が仕事ばかりしてはいけなくと考えています。当社では業務中にゴルフ練習をやらせたり、自社農園に行かせたりしています。色々な価値観の中で様々なものを育てていくのが当社のスタイルです。DXでできた時間を自分へのご褒美に使う、それがDXのあるべき姿です。DXによって生まれた時間をどのように使うかが、継続的に考えるべきテーマだと思います。長屋: ただ、仰って頂いたような考え方で動いているのは、東京や札幌など都心周辺のごく一握りの会社だと思います。それ以外の地域では、現場の残業時間をいかに減らせるかがDXのメインテーマです。

DXの必要性とAI戦略

森: ヤブシタ冷熱設備の社員の平均年齢は35~36歳と若いですが、今後、高齢化により仕事を受けきれない会社が出てくることを考えると、若手の採用さえ間違わなければ黙っていても仕事は来ます。そのために『人が集まる立地への進出』と『若手を辞めさせない努力』をするように言っています。人間は年を取れば、体力も記憶力も低下します。老いによって企業の立ち位置も入れ替わります。ところがDXやAIは老いしません。DXによって、より強く若い布陣を保て、企業が生き残る確率が

速度はゆっくりになります。ただ複数の視点を持っておけば、社員は臆さずにいい判断ができ、DXにも拒否反応がありません。年長の方に使ってもらう時には、始めから若い人よりも長い時間が掛かると想定するといでしょう。自分へのご褒美の時間のためだと理解を得ながら、『時間をかけていい』と伝える。ANDPADの操作は超簡単なので、気持ち次第だと思います。

今後の方向性

長屋: ANDPADは、設備工事向けの機能要望を多く頂きながら開発を続けています。また、導入企業の数だけ運用パターンを蓄積しているため、一社ごとに運用を提案できるのも強みです。サポートを強化し、DXに伴走できるパートナーで在り続けたいと考えています。工事部長向けには各現場の進捗を横断で確認できる機能を、経営者向けには実行予算の管理機能を用意してラインアップを拡充しています。一つの現場で関係者全員がANDPADを使い、うまく運用する世界をつくらせていきたいと思っています。森: ANDPADを使えば間違いなく判断が速くなりますし、建築工事や他の設備工事との進捗に関わるトラブルも、事故も減るでしょう。関係者間の情報共有によって「言った言わない」も防げます。上位2割の人たちが売上の8割を作っているという「パレートの法則」がありますが、私はDXによって、上位2割の人たちに自分の時間、家族との時間を持つようになって頂きたいと思っています。彼らの人生を取り戻すために、ANDPADは間違いなく寄与するでしょう。

